

内分泌代謝科

1. スタッフ

科 長 (教 授) 石橋 俊
 外来医長 (講 師) 長坂昌一郎
 病棟医長 (講 師) 野牛 宏晃
 医 員 (講 師) 江藤 一弘
 (助 教) 草鹿 育代
 病院助教 岡田 修和
 岡田 健太
 高橋 仁麗
 稲葉 利敬
 佐藤奈緒子
 出口亜希子
 安藤 明彦
 シニアレジデント 3名

2. 診療科の特徴

内分泌代謝疾患のうち内科領域で診療すべき疾患群を中心に診療を展開している。外来診療においては糖尿病の血糖管理と合併症予防の占める比重が高い、次いで各種甲状腺疾患（Basedow病、腫瘍）の治療が多い。

入院診療もほぼ同様であるが、糖尿病の血糖コントロール不良例に対するインスリン治療導入、急性合併症である高血糖昏睡・足壊疽等の感染症治療・進行した腎症に対する透析前後の全身管理、周術期・妊娠中の血糖コントロール等が糖尿病関連の入院目的として多い。虚血性心疾患等の動脈硬化性疾患を合併する例も多いため潜在的動脈硬化のスクリーニングとその管理にも力を入れている。内分泌疾患の中ではBasedow病が多く。その入院目的として、放射性ヨード内用療法が多い。粘液水腫性昏睡、甲状腺クリーゼ、抗甲状腺薬による無顆粒球症等の重症例も存在する。

腫瘍性内分泌疾患の確定診断と手術治療適応決定を目的に入院する疾患として、原発性副甲状腺機能亢進症、原発性アルドステロン症、下垂体腺腫（Cushing病、先端巨大症、非機能性）等が多い。又、一定数の摂食障害の患者に対して心理外来を開設している。

2008年度に参加した主な多施設共同研究には、「糖尿病予防のための戦略研究 課題3（J-DOIT3）：2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験」、「糖尿病における血管合併症の発症予防と進展抑制に関する研究」（JDCS）、「糖尿病における合併症の実態把握とその治療に関するデータベース構築による大規模前向き研究」（JDCP）、糖尿病性腎症の寛解を目指したチー

ム医療による集約的治療（DNETT-JAPAN）等がある。

認定施設

日本糖尿病学会認定教育施設
 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設

認定医

日本内科学会認定内科医
 石橋 俊 他13名
 日本内科学会認定内科専門医
 石橋 俊、長坂昌一郎、野牛宏晃、江藤一弘、草鹿育代、稲葉利敬
 日本糖尿病学会専門医
 石橋 俊、長坂昌一郎、野牛宏晃、江藤一弘、草鹿育代、稲葉利敬、高橋仁麗、佐藤奈緒子
 日本糖尿病学会研修指導医
 石橋 俊、長坂昌一郎、江藤一弘
 日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医
 石橋 俊、長坂昌一郎、江藤一弘、草鹿育代、稲葉利敬、槌田武史
 日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）指導医
 石橋 俊、長坂昌一郎

3. 診療実績

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数 889人
 再来患者数 31,436人
 紹介率 65.3%

2) 入院患者数 654人

病 名	患者数
糖代謝異常	483
糖尿病	459
病型分類	
1型糖尿病	43
2型糖尿病	402
その他の糖尿病	14
主な合併症	
急性合併症	17
慢性腎不全	16
足病変	14
妊娠	9
慢性肝疾患	8
悪性腫瘍	6
虚血性心疾患	6
心身症	3
脳血管障害	2
ネフローゼ	1
低血糖	1

境界型	3
妊娠糖尿病	18
低血糖症	3
甲状腺・副甲状腺疾患	
Basedow病	71
原発性副甲状腺機能亢進症	4
甲状腺中毒症	2
特発性副甲状腺機能低下症	1
副腎疾患	
副腎偶発腫	28
原発性アルドステロン症	10
Cushing症候群	6
Preclinical cushing病	3
褐色細胞腫	1
副腎皮質機能不全	1
視床下部下垂体疾患	
汎下垂体機能低下症	5
尿崩症	3
下垂体腺腫	2
先端巨大症	1
ACTH単独欠損症	1
成長ホルモン分泌不全症	1
TSH産生腫瘍	1
電解質異常	
低ナトリウム血症	6
低カリウム血症	3
高カルシウム血症	1
肥満症	5
摂食障害	4
高脂血症	3
高血圧症	3
脱水	1
心因性多飲	1
多発性内分泌腫瘍Ⅱ型	1
無月経	1
多毛	1
合計	654

3) 手術症例病名別リスト

内分泌疾患の診断後に外科的治療を受けた症例について記す。

甲状腺・副甲状腺疾患

原発性副甲状腺機能亢進症	3
バセドウ病	1

副腎疾患

原発性アルドステロン症	3
Cushing症候群	1
Preclinical cushig病	1
褐色細胞腫	1

視床下部下垂体疾患

先端巨大症	1
下垂体腺腫	1
TSH産生腫瘍	1
計	13

4) 主な検査・処置・治療件数

糖代謝異常

急性合併症（ケトアシドーシス、ケトosis、高血糖高浸透圧昏睡）に対する処置・治療	17例
糖尿病性足病変に対する処置・治療	14例

甲状腺・副甲状腺疾患

Basedow病に対するアイソトープ治療	57例
甲状腺中毒症に対するアイソトープ治療	1例

副腎疾患

各種副腎疾患に対する内分泌学的検査	
副腎偶発腫	28例
原発性アルドステロン症	8例
Cushing症候群	3例
Preclinical cushing病	3例
褐色細胞腫	1例

視床下部下垂体疾患

各種視床下部下垂体疾患に対する内分泌学的検査	
汎下垂体機能低下症	5例
尿崩症	2例
下垂体腺腫	2例
先端巨大症	1例
ACTH単独欠損症	1例
成長ホルモン分泌不全症	1例
TSH産生腫瘍	1例

その他の疾患に対する内分泌学的検査

肥満症	2例
心因性多飲	1例
多発性内分泌腫瘍Ⅱ型	1例
無月経	1例

5) クリニカルインディケーター

(1) 治療成績

(2) 合併症例

(3) 死亡症例数	1例
死因：摂食障害	
剖検数：1件	
剖検率：100%	

6) カンファレンス症例

(1) 診療科内

1月30日	Cushing病と感染症
2月6日	糖尿病と不随意運動
2月20日	ACTH単独欠損症
2月27日	糖尿病、壊死性筋膜炎
3月12日	2型糖尿病(CGMSによる連続血糖測定評価)
4月2日	糖尿病と慢性肝疾患
5月7日	成長ホルモン分泌不全症
5月28日	Basedow病と心房細動

- 6月4日 自己免疫性膵炎による糖尿病
- 6月18日 糖尿病と虚血性心疾患
- 6月25日 糖尿病性網膜症
- 9月17日 褐色細胞腫
- 9月24日 2型糖尿病（インスリン早期導入）
- 10月1日 Preclinical cushing synd.
- 11月5日 脂肪肝、肝移植
- 11月26日 インスリンアレルギー
- 12月10日 妊娠糖尿病とメトフォルミン

- 3) 糖尿病の蔓延防止とその合併症予防対策は昨今の医療行政の大きな柱のひとつとなっている。「糖尿病対策推進協議会」が設置され、糖尿病協会栃木県支部の事務局でもある当科にも、この方面への貢献が期待されている。連携と統合を図りながら新たな企画を立ち上げて行きたい。

(2) 他科との合同

内科モーニングカンファランス

- 1月28日 I型糖尿病（CSII）
- 2月20日 1型糖尿病
- 3月5日 糖尿病と感染症
- 4月14日 亜急性甲状腺炎
- 5月12日 Cushing病と感染症
- 5月15日 ステロイド誘発性糖尿病
- 6月17日 不随意運動
- 7月3日 全身倦怠感
- 9月4日 敗血症性ショック
- 10月6日 下痢、嘔吐
- 11月6日 口渇・多飲・多尿
- 12月9日 呼吸苦

(3) 他職種との合同

該当なし

(4) その他

該当なし

4. 事業計画・来年の目標等

- 1) 内分沁代謝疾患の診療は多くの診療科の協力なしには推進し得ない。例えば糖尿病性網膜症は眼科、糖尿病性腎症は腎臓内科、虚血性心疾患は循環器内科、足壊疽は整形外科・皮膚科、甲状腺・副甲状腺疾患は内分泌外科、副腎疾患は消化器外科・泌尿器科、下垂体疾患は脳外科等である。引き続きこれら診療科との連絡を密にとってよりよい診療体制を築いていきたい。2009年度からは糖尿病センターが発足する。合同カンファランスの開催等を通じて当該疾患へのチーム医療を充実させていきたい。
- 2) 診療面では、新たな薬物の登場等に伴う治療法の進歩はみられるが、疾患の治癒をもたらすような画期的な先進治療に乏しいのが当該領域における医療の現状であり、問題点でもある。移植医療、再生医療、遺伝子治療等の臨床応用の機が熟したならば、積極的に新規治療の開発と導入とに取り組んでいきたい。